

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1570300564		
法人名	社会福祉法人上越老人福祉協会		
事業所名	グループホームなかよし寿の家		
所在地	新潟県上越市北新保5番地3 (電話) 025-520-3675		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	21年	9月13日

【情報提供票より】(21年 7月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 2月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	13人	常勤	13人、非常勤 0人、常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	平屋 建ての	1階	部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1ヶ月あたり	20,000 円	

(4) 利用者の概要 (21年 7月現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2		6名	
要介護3	7名	要介護4		1名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 83.5歳	最低	72歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人常心会川室記念病院(内科)、医療法人高田西城会高田西城病院(歯科)
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは上越市郊外にある。平成10年の開所当初は市街地の民家を改修し、定員は5名だったが、平成16年に現在の場所にホームを新築移転し、定員を2ユニット18名とした。建物は木造平屋建ての落ち着いた印象の造りである。
敷地内には、同法人が運営する障害者授産施設があり、また、近くには、法人本部が置かれた特別養護老人ホームや協力医療機関がある。運営法人は、特別養護老人ホームや老人保健施設、ケアハウス、障害者施設などを経営する大規模な社会福祉法人であり、経営面や職員の教育、医療、リスク対策や災害協力、行政や関係機関及び地域住民との交流等において、法人全体で協力・連携する体制が取られている。
ホームでは、「自分や自分の家族にして欲しいことを実践する」という理念のもと、管理者と職員は、家族の協力も得ながら、利用者個別の生活歴や経験を踏まえ、一人ひとりの思いを汲んだ生活支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を踏まえて、「災害時の対応」の強化に取り組んだ。避難誘導訓練や、通報装置・消火器等の取扱い方法の周知徹底を行っており、有事に備えた体制が整備されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員は評価の意義を理解している。職員全員で自己評価を行うことを通じ、サービスの求められている内容を知ることができたと考えている。評価して終わりではなく、評価結果をふまえてサービスの質の向上・改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2ヶ月に1度定期的に開催している。会議ではホームの事業内容の説明や、取り組みについての話し合いが行われている。委員からは、防災についての支援や花壇の手入れの協力などが提案されており、会議での話し合いがサービス向上に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 意見等を言ってもらえるような機会や仕組み作りとして、ホームの玄関に意見や苦情の受付担当者を明示したり、「意見箱」を設置している。また、管理者及び職員は、家族等からの意見は大切なことであると捉えており、面会時には家族との関わりを深めるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の一員として普通のつきあいをすることを意識している。ゴミ収集場所の掃除当番を担ったり、地域の納涼祭への参加や老人会との交流、保育園からの行事参加のお誘い、隣家からの野菜のお裾分けなどがある。ホームとしても、地域の方に休んでもらえるよう道路沿いにベンチを置いたり、消防団に理解を深めてもらえるようホームを見学してもらったり、行事を主催するなど、地域への働きかけに努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分や自分の家族にしてほしいことを実践する。個人を尊重し、あるがままに受け入れ、普通の生活ができるように、ゆったりとした時間の流れの中で、ケアをさせていただく」ことを理念とし、実践している。『普通の生活』には、「地域住民との関係を継続し、地域の一員として暮らし続ける」ことも含んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、随時のミーティング時や月1回のスタッフ会議の際に、理念の実践について話し合い共有している。職員は理念の意味を理解し、利用者個別の生活歴や経験を踏まえ、一人ひとりの思いを汲んだ生活支援を行っている。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえようように取り組んでいる	家族には、訪問時や電話等、利用者の支援の報告を通してホームの理念を伝えている。また、年に4回、生活の様子を記したホーム独自の広報を発行して家族や地域に配布回覧している。さらに地域住民に対しては、夏祭りやお茶会などのホーム行事での交流を通して理念の浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として普通のつきあいすることを意識している。ゴミ収集場所の掃除当番を担ったり、地域の納涼祭への参加や老人会との交流、保育園からの行事参加のお誘い、隣家からの野菜のお裾分けなどがある。ホームとしても、地域の方に休んでもらえるよう道路沿いにベンチを置いたり、消防団に理解を深めてもらえるようホームを見学してもらったり、行事を主催するなど、地域への働きかけに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解している。職員全員で自己評価を行うことを通じ、サービスの求められている内容を知ることができたと考えている。評価して終わりではなく、評価結果をふまえてサービスの質の向上・改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的開催している。会議ではホームの事業内容の説明や、取り組みについての話し合いが行われている。委員からは、防災についての支援や花壇の手入れの協力などが提案されており、会議での話し合いがサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者にとって有益なサービスを提供できるよう、市の介護保険課、福祉課の担当者と連絡を取り合い、協力してサービスの向上に取り組んでいる。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は法人の「職員行動規範」を指針として、虐待をしない姿勢でいる。管理者及び職員は、法人の研修計画の中で虐待について学んでいる。管理者及び職員は、日々の業務の中で不適切な言葉がけがないか意識し、時にスタッフ会議の中で話し合いを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には利用者の日々の生活の様子を報告したり、健康状態の変化があった時や受診後などは、家族の都合に合わせた方法で報告している。預かり金の収支報告や運営推進会議の記録は定期的に送付している。また、年4回発行の広報誌でホーム全体の様子を伝えている。		利用者の様子については、電話連絡をしたり、郵送物に手紙を同封して文書で伝えるなどしているが、利用者全員に定期的に行うには至っていない。ホームでも定期的な報告をしたいと考えているので、今後のさらなる取り組みに期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等を言ってもらえるような機会や仕組み作りとして、ホームの玄関に意見や苦情の受付担当者を明示したり、「意見箱」を設置している。また、管理者及び職員は、家族等からの意見は大切なことであると捉えており、面会時には家族との関わりを深めるように努めている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との関係づくりを大切にして、意見や提案を発言しやすい職場の雰囲気作りに努めている。毎月のスタッフ会議のほか、法人内のグループホーム会議での意見も運営に反映させおり、行事や日々の業務内容に職員からの提案が活かされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	複数の事業所を運営する法人であり、必要最小限の異動は定期的に行われている。職員の異動がある場合は、利用者へあらかじめ伝えてダメージを軽減できるよう努めている。また、異動してきた職員には、利用者と関わる時間を多く持ち関係づくりができるよう、業務上の配慮をしている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが行われている	法人の各種マニュアルが整備され、研修も行われており、職員は周知している。必要に応じてグループホーム用に改定したり、不足の内容を補充したり、現状にあわない内容の変更をするなど、適宜見直しを行っている。		現在、ホームにあったマニュアルの整備を順次進めているところである。引き続き取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修が年間を通して計画されている。職員全員が出席できるように、1つの研修内容に対して複数回開催されている。法人内の3つのグループホームの研修会も行われている。また、管理者は日々の業務の中で、職員の学びに繋がるように意識して働きかけや指導をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の3つのグループホームで、管理者及び職員が交流する機会があり、学習会や事例検討を重ねサービスの質の向上に努めている。また、県のグループホーム協議会に加入し、職員が研修等に参加している。		法人内のグループホーム間での交流に加え、外部の事業所との交流も大切であると考えられるので、今後も引き続き取り組んでいくことを期待したい。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者はメンタルヘルスの講習会を企画し、管理者が職員のストレスや悩みの軽減への理解を深め、個々の職員の様子を把握できるように支援している。また、ホームだけでなく法人内の他事業所職員との交流・親睦の場を設け、ストレス軽減に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前には、家族と共に事前にホームを訪問してもらい、雰囲気や環境を確認してもらっている。その際、管理者や職員は、安心感を持ってもらえるよう心がけて対応している。事前訪問も実施し、本人の生活について情報を得ている。サービス開始後は、利用者が生活に馴染めるよう関わり方に配慮し、家族にも訪問を働きかけるなど協力をお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の経験や技術、特技を引き出す機会を持っている。それを通じて、職員が教えてもらった一緒に楽しんだり、励まされたりという場面が作られている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	電話での連絡や面会時の関わりの中で、利用者本人の様子や情報を家族と共有し、利用者を支えていくための協力関係を築けるよう努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、事前面接や、利用していたサービス事業所からの情報に基づき思いや意向の把握に努めている。入居後は、日々の関わりの中で、本人の態度や表情、発言などから思いや意向を汲み取るよう努めている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、事前面接等で情報を収集している。入居後も、センター方式のアセスメントシートの一部を使って利用者一人ひとりの暮らし方や過去の経験等の情報を収集・記録し、継続して把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	前回の評価を踏まえて、サービス提供や介護計画作成に役立つ記録となるよう、センター方式のアセスメントシートを活用しながら利用者の生活状況や職員の気づきを記録した。それらを踏まえて、職員全員で検討し、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月モニタリングを行い、定期的には6ヶ月ごとの見直しをしている。利用者の健康の変化や要望、家族からの意見などがあったときは、利用者や家族と随時話し合い、必要に応じて見直したり、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の他施設から看護師・管理栄養士・作業療法士がホームを訪問し、利用者・職員の相談に応じたり、助言を行っている。また、法人の車両を使って利用者の希望の場所に外出したり、施設のホールで行事を開催したりしている。協力病院との連携で、入院せずに対応したケースもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの医療機関をかかりつけ医として継続することを原則としている。受診の付き添いは家族等においており、受診前後の情報共有をしている。かかりつけ医は、利用者がグループホームで生活している状況を理解しており、待ち時間の配慮や往診などに対応してくれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化しても、ホームとしてどこまでその人らしく暮らすことの支援ができるか職員間で話し合っている。ホームが対応し得るケアの方針については、管理者から利用者や家族等にも説明し、了解を得ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護のガイドラインを定めている。記録は事務室で行い、書類も常に書庫に保管し、利用者の目にとまることのないよう日頃から意識している。サービス場面においても、職員は利用者一人ひとりに対して尊厳をもって声かけや対応を行っている。管理者は、職員の言葉かけが不適切でないか常に注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりの体調や能力、望む生活のペースを尊重し、活動等の無理強いをせず、1日の生活の流れを柔軟に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや配膳等の食事の準備、後片づけには、利用者が希望と能力に応じて役割分担をし、職員と共に行っている。食材の買い出しにも利用者から参加してもらい、食への楽しみにつなげている。食事は利用者と職員と一緒に、献立の内容や季節の話題を話しながら和やかに食べている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。個々の利用者のパターンや能力に応じて、トイレへの誘導の声かけや、トイレでの排泄介助等必要な支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の週回数や時間帯は利用者の希望に添うように努めている。毎日入浴する人もいるが、入浴したくない人には、無理やり勧めることはせず、声かけのタイミングや誘う職員を変えるなど工夫して、気持ちよく入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に関する情報を収集して出来ることや興味のあることを推測し、無理強いのことなく楽しみごとや役割等を支援している。毎月の計画を立てて馴染みの場所へドライブに行ったり、野菜作りや草花の栽培等、利用者と職員と一緒に楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事前に計画したり、利用者の希望に応じて、馴染みのある場所への外出や、買い物、外食等楽しんでいる。また、利用者の様子や天候に応じて、ホームの周りを散歩して気分転換を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束をしないことを明確にし、実践に取り組んでいる。法人主催の研修会に参加したり、ホームでも身体拘束委員会を中心に検討するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、管理者は、言葉による拘束もないよう注意し、職員に働きかけている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は、鍵をかけることの弊害を理解し、利用者の自由な暮らしを支援している。施錠により利用者の行動を制限しないこととし、日中は玄関に鍵をかけていない。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故等の発生時には、事故報告書やひやりはっと報告書が作成されている。発生後は速やかに職員間で話し合いを行い、利用者一人ひとりへの具体的な対応や対策を講じている。また、実施した対応や対策についての振り返りも行い、再発防止につなげている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	急変や事故発生時の対応のマニュアルが整備されている。職員は、毎年法人主催の救急法の訓練及びホーム内の研修に参加して、知識・技術の研鑽をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	災害対策マニュアルが整備されており、緊急非常通報装置取り扱い手順や、消火器の設置場所・取り扱い方法等も徹底されている。避難訓練は、隣接する同法人の障害者授産施設との合同のほか、平成21年度からはホーム単独の訓練も行われ、避難誘導や煙の体験、消火訓練等を実施している。消防署および地元の消防団には、建物内の間取りを知ってもらい、非常時の協力体制を築いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの食事摂取総量や水分量を把握している。食事の献立は職員が作成しているが、法人他施設の管理栄養士から定期的に指導・助言を受けている。献立は、利用者の嗜好を反映するとともに、内服薬の弊害となる食材を使用しないなど注意している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間は広く取られ、天井も高く天窓もあり採光が良い。食堂・居間の窓からは中庭が見え、花だんや畑の植物の成長を見て楽しむことができる。中庭には、居間から直接、いつでも自由に出ることができる。ホーム内にも花や観葉植物、利用者の作品や日常の様子の写真を飾り、季節感や生活感のある環境づくりをしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッドはホームで用意しているが、その他家族との写真や使い慣れた家具、日用品類などは、利用者の生活スタイルに合わせて用意されている。家族の協力を得て馴染みの物を持ち込んでもらい、利用者本人が居心地よく暮らせるように居室づくりをしている。</p>		